

リーディング・プロジェクト

■ リーディング・プロジェクトの位置づけ

この計画の基本構想において、地域を経営するという観点に基づき戦略的な地域づくりを進めることを掲げています。戦略的な地域づくりとは、地域の望ましい将来像の実現に向け、さまざまな地域資源を統合して大局的な地域振興方策を講じていくことを意味しています。

このような戦略的な地域づくりを進めるためには、通常の事務・事業や施策の垣根を越えた横断的なプロジェクトを組織し、一つのまとまりある事業として推進していくことが効果的です。

このような趣旨に基づき、『望ましい将来像の実現を先導する横断的な事務・事業のまとまり』をリーディング・プロジェクトとして位置づけ、推進を図っていくこととします。

■ リーディング・プロジェクトの構成と特徴

リーディング・プロジェクトは基本政策（まちづくりの基本方針）ごとに組織することとし、全体で7本のプロジェクトから構成されています。原則として、基本構想において『重点分野』と位置づけられた分野に関連するプロジェクトとなっています。

リーディング・プロジェクトを構成する事務・事業の中には、基本計画（本編）に掲載がないものもあります。これは、現時点では実施することが確定していない事務・事業も含め、戦略的な地域づくりの全体像を示すことがプロジェクトの性格や方向性を明らかにするために必要であるためです。

基本計画（本編）に掲載がない事務・事業については、今後、プロジェクトの進捗状況などを見ながら、検討を進めていくこととします。

■ リーディング・プロジェクトの推進方法

リーディング・プロジェクトを推進するため、地域再生計画や構造改革特区、国の省庁による各種補助金・交付金など、利用できる制度や特定財源を積極的に活用していくこととします。

また、リーディング・プロジェクトに掲げられたプロジェクトは、それぞれ担当部局で推進することはもちろんですが、複数の部局にまたがる事務・事業から構成されているものが多いため、必要に応じて庁内推進本部やプロジェクト・チームを組織したり、専任課を新設するなど、庁内における推進体制を整備していくこととします。



プロジェクト1 JR竜王駅を拠点とする周辺地域活性化プロジェクト

■ これまでの取り組み

- ① 平成18年度からプロジェクトを組織し、駅周辺の土地利用方針及び市街地景観について協議を行い、イメージをまとめました。なお、プロジェクトにおいては、中心市街地活性化基本計画の策定についても検討されました。しかし、甲斐市内においては、衰退している商店街が見当たらない、また中心市街地の範囲がどこなのか不明確などの指摘により、計画の策定を断念しました。
- ② 平成18年12月、駅利用者に対するアンケート調査を実施し、1,370枚中750枚の回答を得ました。
- ③ 平成19年1月、甲斐市商工会の竜王駅周辺地域活性化委員会が開催され、商工業者の視点による活性化に対する協議が行われました。
- ④ 平成19年度、竜王駅南口地権者を中心に市街地再開発の手法等について理解を深めるため、勉強会を開催するとともに先進事例の視察を行いました。また、土地利用や自身の考え方等に関するアンケート調査を実施しました。
- ⑤ 平成20年3月、橋上駅舎及び南北自由通路が完成しました。
- ⑥ 平成21年10月、竜王駅からの集客と芸術文化の振興を目指した県立美術館・文学館との連携調印を締結しました。
- ⑦ 平成21年11月、駅周辺自治会住民を対象に、駅周辺道路に植栽する街路樹に関するアンケート調査を実施しました。その結果、街路樹は要望の多かった百日紅（サルスベリ）に決定しました。
- ⑧ 平成22年3月、南北駅前広場及び周辺道路の工事完了をもって、竜王駅周辺整備事業が終了しました。
- ⑨ 平成22年6月、駅を拠点とした周辺地域の魅力発信事業を検討する「竜王駅魅力発信協議会」が設立され、活性化事業についての検討が始まりました。
- ⑩ 平成22年7月、竜王駅を交通結節点とする新たな甲斐市民バスの運行が始まりました。
- ⑪ 平成22年11月～平成23年1月、竜王駅魅力発信協議会による「竜王駅南北駅前広場イルミネーション事業」が実施されました。

■ プロジェクトの概要

合併以降進めてきた竜王駅周辺整備事業は、橋上駅舎、南北自由通路、南北駅前広場及び周辺道路等の整備をもって、平成22年3月にすべての事業が終了しました。

甲斐市都市計画マスタープランにおいては、竜王駅周辺は市全域の拠点となる「都市拠点」として複合的に機能を配置・集積し、交通結節点としてアクセス性の向上を図り、本市の玄関口として賑わいある都市空間を創出していくこととなっています。今後は、民間活力を活かした駅周辺地域の整備を進めていきます。

また、既存商店街との連携・調整を図りつつ、さらに魅力ある個店の配置や集合店舗化等を促進するとともに、駅前通りを本市のシンボルとなる街並みとして位置づけ、修景や美化を推進します。

■ プロジェクトの具体的内容

- ◆ 商店街の活性化（個店の魅力再生・事業継承支援、共同店舗化支援など）
- ◆ 新たな高次都市機能⁶²の整備・誘導（芸術文化機能、医療福祉機能の誘導など）
- ◆ 市のシンボルとなる景観形成（景観地区の指定、景観計画の策定など）
- ◆ 推進体制の構築支援（まちづくり会社、NPO法人等の設立支援など）
- ◆ 回遊性を高める交通手段の整備に向けた支援
（駅周辺におけるコミュニティバスの運行など）
- ◆ 竜王駅魅力発信協議会による地域活性化事業支援



62 高次都市機能

日常生活を営む圏域を越えた広範な地域を対象とする質の高い都市的サービスを提供する機能を言います。具体的な施設としては、大学院・大学・短期大学・研究機関など研究開発施設、劇場・美術館・博物館・専門図書館など芸術文化施設、スタジアムなどスポーツ・レクリエーション施設、高度専門医療施設、遊園地・映画館など余暇娯楽施設などがあります。

プロジェクト2 食と文化による生涯学習推進プロジェクト

■ これまでの取り組み

- ① 平成19年12月、食育の推進及び生涯学習の推進をテーマに、プロジェクトを立ち上げました。まず、食育の現状把握を行うため、各課で実施されている食育関連事業についての拾い出しを行いました。
- ② 平成20年2月、ワーキングメンバー及び関係職員を対象に「食」に関する事業調査を実施しました。
- ③ 平成20年4月、調査結果をもとに、出先機関の職員や関連団体の代表者に参加をいただき、食育に関する取り組みや課題についての意見交換会を開催しました。
- ④ 平成20年10月、食育を取り巻く個々の課題やその原因、解決方法などの検討結果をとりまとめた食育推進に関する報告書を作成し、部長会議へ報告しました。
 - 子ども・働き盛り・高齢者の現状、問題とその解決策
 - 特に子ども・家庭・地産地消を重点項目とする
 - 食育推進計画策定の必要性
- ⑤ 平成20年11月、次の課題の生涯学習の推進について検討するため、プロジェクトを立ち上げました。
- ⑥ 平成21年2月、現在市が実施している生涯学習事業、スポーツ推進事業、国際交流事業等の現状把握を行い、取り組み状況等についての整理を行いました。

■ プロジェクトの概要

食事や食生活を通じて心身や人間性を育てる「食育」を進めるため、家庭と地域、教育現場が連携した取り組みを進めます。

特に、学びや気づきによる地域の食文化への理解を進めるとともに、地域の食材を積極的に活用する体制を整えます。

また、さまざまな場面で活躍する市民や経験豊富な団塊世代・高齢者の協力により、地域の伝統文化などに対する理解と関心を深め、生涯を通じた心豊かな人間教育の推進を図ります。

さらに、国際社会に適合できる感性豊かな市民を育てるため、在住外国人などの協力を得ながら、外国文化に関する学習機会の充実を図るとともに、国際交流の発展を図ります。

■ プロジェクトの具体的内容

- ◆ 保育や教育の現場における食育の推進
- ◆ 学校給食への地域食材の利用の推進（学校給食への供給体制の構築など）
- ◆ 食育計画の策定
- ◆ 地域の人材を活用した伝統文化等の学習機会の充実
- ◆ 生涯スポーツにおける地域の人材の活用
- ◆ 在住外国人との交流・連携による国際教育の推進
- ◆ 生涯学習の成果をまちづくりに活かす体制の整備



プロジェクト3 小地域ふれあい交流サロン推進プロジェクト

■ これまでの取り組み

本事業については、甲斐市社会福祉協議会により実施されており、その内容は次のとおりです。

- ① 事業名:甲斐市ふれあいいきいきサロン
- ② 甲斐市が推進するいきいきサロンとは
 - ・ 65歳以上の高齢者の介護予防、閉じこもり予防の一環として、各地区が実施する事業への支援を行っています。(一部高齢福祉課の委託事業)
 - ・ 手法として、自治会の公民館等を会場にお茶飲み会などに合わせ介護予防体操や手芸、各種レクリエーションなどを実施していただいています。
 - ・ 地区でサロンを設立した場合、3B体操が年2回、保健師による介護予防教室が年1回、地区の負担なしで開催できます。
 - ・ 閉じこもり予防を兼ねているため、仲間内での「趣味の集まり」ではなく、地域内の一人暮らしの高齢者や近所付き合いがあまりない方、また普段から閉じこもりがちな方に声をかけていただき、参加を呼びかけています。
- ③ サロンに対する支援等
 - ・ 補助金の交付(サロンに要した経費(茶菓子代は除く)を対象に、年間の総参加人数と実績により、10,000円から30,000円の範囲で交付)
 - ・ サロンの道具の貸し出し(輪投げセット、ビーンボウリング、グランドゴルフセット、プロジェクトター、パタンク、甲州弁カルタ、マーじゃんセットなどを無料で貸し出し)
 - ・ 社会福祉協議会バスの運行(サロンの目的に適合した事業の場合無料で運行)
 - ・ 3B体操、介護予防教室の出張講師派遣(直接高齢福祉課へ申し込み)
 - ・ 専門講師の派遣申し込み支援
 - ・ 社会福祉協議会職員やボランティア講師の派遣
 - ・ サロンのチラシ作成、印刷物作成等の支援
 - ・ 設立の際の支援
- ④ 平成22年度実施状況(各自治会単位で開催)
 - ・ 竜王地区 10ヶ所
 - ・ 敷島地区 10ヶ所
 - ・ 双葉地区 9ヶ所

今後も各自治会に呼びかけを行い、サロンの設立支援を行っていきます。

■ プロジェクトの概要

高齢者が住み慣れた地域で生きがいを感じながら必要なケアを受けることができるよう、地域集会施設等を活用した世代間交流を進めます。

ここでは、高齢者を単に身の回りの世話などを受けるだけの存在とするのではなく、就業している親に代わって地域の子どもたちの面倒を見たり昔の遊びを教えたりするなど、互助の精神に基づき一定の負担や貢献も行う存在として位置づけていきます。

また、こうした取り組みを支える専門人材の派遣や経営補助者の育成・確保を進め、日常的な取り組みとして定着を図ります。

■ プロジェクトの具体的内容

- ◆ ふれあいの“場”の確保・整備（地域集会施設、公民館等の活用など）
- ◆ ふれあいボランティア（仮称）の確保・育成
（事業の運営にあたる者=コーディネーターの確保など）
- ◆ 福祉・医療など専門的支援の実施（保育士、保健師等の派遣など）
- ◆ 世代間交流イベントの実施（交流・発表の機会の確保など）
- ◆ 地域文化継承への支援（地域集会施設における地域学習の実施など）



プロジェクト4 農を起点とする新たな地域産業創造プロジェクト

■ これまでの取り組み

平成21年度から、甲斐市の農業振興策の一つの核として、赤坂地区を拠点に遊休農地を活用し、トマトの養液栽培を行う「赤坂地区活性化事業」がスタートしました。

- ・ この事業を、プロジェクトの具体的内容である農業と商工業の連携、新たなビジネスモデルの開発、また地域ブランドの開発などに通じる総合的な事業として位置づけ、取り組みを推進しています。
- ・ 事業は、赤坂地区活性化協議会を設立し、農林振興課が所管し推進していますが、関係職員を中心とした協議・検討を随時行い、事業の円滑な推進を目指しています。

■ プロジェクトの概要

現在、赤坂地区で取り組んでいるトマトの水耕栽培をモデル事業に位置づけ、ブランド化も視野に、その付加価値を高めるための産業間連携や新たなビジネスモデルの開拓を進めます。

また、都市住民との交流の推進や商工業との連携による農業の多面的価値を引き出す取り組みを強化します。

さらに、農業法人等の担い手を育成する中で、農業の主たる担い手への農地の集積を進め、農業経営の近代化を促進します。



■ プロジェクトの具体的内容

- ◆ 赤坂地区活性化事業の推進
- ◆ 農地の利用集積の円滑化及びあっ旋仲介、就農支援を総合的に進めるシステムの構築（農地保有合理化法人の設置など）
- ◆ 特色ある教育機関との連携による新たなビジネスモデルの開発
- ◆ 農業法人・農業ボランティアの育成
- ◆ 農業と商工業との連携の推進



プロジェクト5 災害に強いまちづくり推進プロジェクト

■ これまでの取り組み

- ① 平成18年6月、甲斐市市民防災マニュアルが完成し、全世帯へ配布し防災に対する意識喚起を図りました。
- ② 平成18年10月、プロジェクトを立ち上げ、検討を始めました。
- ③ 大雨や台風による水害や土砂災害による危険箇所を明確にし、被害を最小限に抑えるため、洪水ハザードマップの作成について協議を行い、所管課において作成作業を始めました。平成20年3月、甲斐市洪水ハザードマップが完成し、市内全世帯へ配布しました。
- ④ 防災行政無線のデジタル化に伴い、平成21年度から市全域における防災行政無線のシステム見直しに着手し、デジタル化移行に向けての整備を進めています。
- ⑤ 平成21年度には、高齢者など災害弱者救済を目的とした災害時要援護者支援マニュアルについて検討を行い、マニュアルを作成しました。現在、福祉保健部を中心に対象者や支援希望者などの調査を行い、名簿等の整備に努めています。
- ⑥ 災害発生時における応急対策等を事前に確立するため、災害協定の締結を推進しています。平成22年4月現在の状況は、次のとおりです。

相互援助	……………	7協定
応急対策、復旧	……………	7協定
物資等緊急輸送	……………	3協定
生活物資等調達	……………	8協定
情報収集	……………	1協定
資機材等調達	……………	1協定
- ⑦ 非常時に備え、各指定避難場所等への災害物資備蓄の強化を行っています。
- ⑧ 自治会における自主防災組織の組織化を促進し、地域での防災体制の確立を推進しました。また、自主防災組織が行う訓練等に対し支援を行っています。
- ⑨ 社会福祉協議会との連携により、防災ボランティアの育成を推進しています。

■ プロジェクトの概要

地震などの大規模災害に際し、全国から集まるボランティアの善意が有効に活かされるよう、被災地のニーズの把握や諸団体などとの連携を調整（コーディネート）する防災ボランティア・支援員を養成するとともに、いざという時にすばやく安全に避難できるよう、地域自治組織単位での避難地図づくりを促進します。

また、情報提供体制や物資の確保などに不安がないよう、準備や態勢を整えます。さらに、被災時に他の自治体や民間企業などの協力が迅速に得られるよう、救援・復興活動に関する協定の締結を進めます。

■ プロジェクトの具体的内容

- ◆ 防災ボランティア・支援員の養成
- ◆ 救護や応急措置ができる市民ボランティアの育成
- ◆ 無線等による災害情報の提供体制の確立
- ◆ 他の自治体や民間企業等との災害協定の締結推進
- ◆ 災害物資備蓄の強化
- ◆ 自主防災組織の強化・育成



プロジェクト6 市民の声を活かす協働のまちづくり推進プロジェクト

■ これまでの取り組み

- ① 平成19年9月、「甲斐市パブリックコメント実施要綱」が施行され、条例や計画などの素案を市民に事前に公表し、広く意見を求めています。
- ② 平成20年度から実施している事務事業評価の結果を、市ホームページで公表し、事業経費や成果等を明らかにするとともに透明性の高い事務事業の執行に努めています。
- ③ 平成22年6月、「審議会等の設置及び運営に関する指針」、「審議会等の委員公募に関する指針」、「審議会等の会議の公開に関する指針」及び「審議会等の会議の傍聴に関する要領」が施行され、市民の市政参加の促進に努めています。

■ プロジェクトの概要

自治の基本原則や、行政の基本ルールなどを定めた自治基本条例（仮称）を制定するとともに、協働のまちづくり基本方針を定め、市民と行政が共に担う協働の仕組みづくりを確立し、市民の市政への参画を促進します。

特に、政策形成や行政評価など、これまで市民に公開されてこなかった分野における市民の参加機会を増加させるとともに、市政情報の提供を積極的に行います。

また、NPO法人やボランティア団体など、意欲ある市民からなる組織を協働の先導役と位置づけ、これらの団体との連携によるまちづくりを進めます。

■ プロジェクトの具体的内容

- ◆ 自治基本条例（仮称）の制定
- ◆ 協働のまちづくり基本方針の策定
- ◆ 附属機関等への公募委員登用の推進
- ◆ タウンミーティング⁶³の開催
- ◆ NPO法人等との連携・協働関係の構築



⁶³ タウンミーティング

市民と行政による意見交換を目的として開催される対話集会のことを言います。

プロジェクト7 地域ブランド戦略推進プロジェクト

■ これまでの取り組み

- ① 平成18年8月、イベントの在り方を検討するため、プロジェクトを立ち上げました。
 - ・ 協議の結果、旧3町で実施されてきたイベントの統合は合併時からの課題であり、新市の一体感の醸成を図る意味からも統一を図ることになりました。
 - ・ 平成19年4月から、新しいイベントの骨子についての検討が進められました。その結果、「子ども」をメインテーマに掲げたイベント内容とすることに決定し、10月7日に第1回甲斐市わくわくフェスタが、日本航空学園を会場に開催され、以後継続開催されています。
- ② 平成20年1月、地域ブランドの調査・研究を行うためプロジェクトを立ち上げました。

【検討内容】

- ・ 市内の地域資源の洗い出し、及び資源の現状と活用状況
- ・ 市を代表する地域資源の抽出
- ・ 甲斐市の地域イメージ
- ・ 地域イメージの高揚やブランド化に関連する事業について

【検討結果】

- ・ 市内の資源を「自然資源」、「歴史資源」、「モノ資源」及び「サービス資源」に分類し約300の資源を抽出しました。
- ・ 市内には、地域ブランド商標を取得している「やはたいも」があります。また「甲州ワインビーフ」、「昇仙峡」、「信玄堤」、「竜王駅」など著名なものもありますが、外部へ発信する資源としてのインパクトは強くありません。
- ・ 甲斐市全体のイメージを確立し、付随する他の資源を組み合わせることにより、日常生活との違いをブランドとして組み立てることが必要です。

甲斐市のイメージ＝「自然環境」・「甲斐的（快適）生活」

また、ブランド化の推進に関しては、関係者や地域の熱意が重要であり、行政がどうフォローしていくかが、長続きのポイントであることを確認しました。

- ③ 平成21年6月、赤坂地区活性化事業への取り組みが始まりました。

■ プロジェクトの概要

特産品などの“もの”に限らず、地域が有する“こと”や、伝承する“文化”、“風習”など、甲斐市だけに存在するさまざまな資源を活かし、その価値を磨き上げ、ブランドとして確立することにより、他の地域との差別化を図り、市場における情報発信力や競争力の面で優位性を確保することをねらいとする取り組み（地域ブランド戦略）を進めます。

■ プロジェクトの具体的内容

- ◆ 地域ブランド資源の発見・発掘
- ◆ 地域ブランド資源の磨き上げ
(特産品開発、交流環境整備、農産物の品質向上など)
- ◆ 「甲斐的ブランド(仮称)」によるPR活動の推進
(キャンペーン、各種コミュニケーション活動など)

